

令和5年度分大船渡市教育委員会事務の点検・評価結果に対する意見

1 事務事業

番号	事務事業名	意見
1-1-1	外国青年招致事業	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の指導日数を少しでも増やしてほしい。 ・意図は「異文化や本物の英語に触れることができる」だが、成果指標は「外国語（英語）の授業が好き」の割合である。当該事業の英語指導助手が教員の補助という立場であるため、意図を「触れる」としているのであれば、外国語指導助手の具体的な取組内容により、児童生徒が外国語（英語）を好きになってきているという成果を示してほしい。
1-1-2	知能検査・学力検査実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度目標が、令和2年度の当市の実績値であるということ鑑みると、当該検査の正答率が落ちているということである。落ち込んでいる教科や傾向を把握し、授業研究に努め、学力向上につなげてほしい。
1-1-3	特別支援教育支援員配置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員は各学校に1名以上が配置され、児童生徒の実態や学校の実情に応じた活用がなされている。学校からの満足度も高いことから、このまま維持してほしい。 ・特別な支援を必要とする児童生徒が各活動に参加するためには同人数の支援者が必要となる。学校の状況に応じた手厚い支援をお願いします。
1-2-1	教育相談員配置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・半数の子どもたちに少しでも改善がみられたことは評価に値する。 ・意図及び事業内容に、「問題行動」と記載されているが、文部科学省では不登校を問題行動とは捉えていない。学校不応適とか、他の子どもへの安全配慮が必要という意味であるならば、表現を見直す必要がある。
1-2-2	心の教室相談員配置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・心の教室相談員と教育相談員が連携することで、子どもたちへの対応がより手厚くなる。 ・相談しやすい環境を整え、多くの生徒と気軽に対話することにより、不登校対策の大きな要素になることが期待される。 ・気軽に訪れやすい体制づくりや相談員のスキルアップが求められる。
1-2-3	緊急スクールカウンセラー等派遣事業	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーは、家庭支援の役割が強く、学校として対応が難しいところを担っている。学校と子どもに関わる機関がきちんと連携し、情報を共有しながら対応していくことが大事である。

番号	事務事業名	意見
1-3-1	小中学校体育文化活動大会出場費補助事業	<ul style="list-style-type: none"> 補助対象経費に対しての補助率だと、実際の支出額に対して、どのくらい補助されているのかが見えてこない。 経済的負担が増えることを懸念して保護者が強い部活を避ける傾向がみられる。部活動の地域移行により、指導者への謝礼等、親の負担が増していくことも考慮し、補助の拡充をしてほしい。 子どもたちには、スポーツや文化活動に積極的に取り組んでほしい。
1-3-2	学校給食事業(小中学校)	<ul style="list-style-type: none"> 食に関する指導(食育)は全校で実施されており、様々な取組をしている。 学校統合に伴う共同調理場の廃止や調理作業の委託化などが進んでいる。効率的な事業運営を図りつつ、今後も安全でおいしく、栄養バランスのとれた給食を提供してほしい。
1-4-1	教育用コンピュータ整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用機会が増えてきているが、教える教員の負担が大きいくという課題がある。研修会や校内学習等により、教員のスキルアップを図っていくことが重要である。 ICTを活用した子どもの学びを導いていくには、適材適所の配置をし、学校全体で子どもを支える体制を整え、柔軟な対応をしてほしい。 学校によって条件が異なるため、校内どこからでも良好なインターネット接続が維持できるよう、各校の要望に応えることが必要である。
1-4-2	学校施設整備事業	<ul style="list-style-type: none"> 市の各種計画に基づき、学校施設の老朽化、長寿命化に対応していく必要はあるが、特にも古い校舎への修繕を手厚くしてほしい。 児童生徒がより安全で快適な学校生活が送れるように、施設だけでなく、便器など設備の細かな老朽化にも対応してほしい。 学校には、現在使用していない楽器や部活用具等が多数あり、メンテナンスに費用が生じることから、今後の方向性を検討する必要がある。
1-4-3	小・中学校適正規模・適正配置基本計画推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 統合により生徒数が増加し、部活動が充実するのは良いことだが、横のつながりが希薄化する中で不安の声もある。 学校統合においては、保護者同士の結束も重要になってくる。様々な会合を重ねることで、お互いを思いやり、積極的にコミュニケーションを取ることが大切である。
1-5-1	地域学校協働本部事業	<ul style="list-style-type: none"> 現時点では、概ね学校の希望通りにスクールガード等を配置できているが、人員の確保が課題となっている。 学校の活動に協力してくれる地域住民の発掘には、学校だけでは困難であることから、市及び地区の協力が必要である。
2-1-1	三陸公民館施設管理・運営事業	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標が目標値を大きく超えている。今後も引き続き、利用状況等を考慮しながら、減免制度の見直しなど検討してほしい。

番号	事務事業名	意見
2-1-2	図書館運営事業	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者制度導入後、多様な自主事業の展開など図書館の企画や運営において、民間企業ならではの工夫が感じられる。 指定管理者と連携を密にし、引き続き指導、監督に努めてほしい。
2-1-3	博物館施設改修事業	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は常設展示「荒れ狂う海コーナー」を改修しており、展示についても工夫している。 施設の老朽化が進んでいるため、何らかの改修が常に必要であると思うが、施設整備を計画的に進めつつ、今後も更なる工夫をお願いしたい。
2-2-1	生涯学習情報の提供事務	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標が市民意識調査であるため、生涯学習に関心がない人の回答は、この評価への正確な指標になるのか疑問である。 成果指標が低い要因が、学習したい人に情報が届いていないのか、全体の学習意欲が低いのか、わからない。 子育て世代など明確なターゲットを意識しながら取り組むことが重要である。 高齢者のために紙媒体での情報提供も必要である。また、引き続き、SNSの使い方講座を実施してほしい。 年代等に応じた発信方法を把握すれば、今後さらに成果指標が増加する可能性がある。 情報の発信活動は行われている。進捗度は限りなく「B」になる可能性を秘めた「C」と考える。
2-2-2	市民講座開催事業	<ul style="list-style-type: none"> 新規に中学生を対象とした「ふるさと教育講座」を実施したことにより受講者数が増えており、明治大学との連携講座も毎年趣向を凝らして実施している。継続することが肝要である。
2-3-1	社会教育関係団体活動支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に活動をしている団体に、補助金を交付することにより、社会教育活動の継続が図られている。
3-1-1	学校体育施設開放事業	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の目的は、活動の場を確保することであるが、それに伴って管理人の確保が課題となっており、管理体制についての検討が必要である。
4-1-1	文化財普及活用事業	<ul style="list-style-type: none"> 文化財に親しむ機会を創出するため、市民が興味を抱きそうな良い企画を実施しており、成果としても表れている。 進捗度は、「特A」でも良いと思うほどである。
4-1-2	博物館展示事業	<ul style="list-style-type: none"> 専門家の関心をすごく集めており、来館者数も増えている。対外的な広報は成功していると見て良いだろう。大変評価に値するものだと思う。 想像を超えるほど人口減少が進んでいる。高齢化が進む中で大変だと思うが、工夫を凝らして頑張してほしい。 マスコットキャラクターなどがいると親しみが湧く。
4-2-1	文化財保護管理事業	<ul style="list-style-type: none"> 貴重な文化財が滅失しないように、引き続き保護管理をしていく必要がある。

2 基本事業

基本事業名	意見
1-1 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用状況が向上し、授業での使用頻度も増えていることから、より効果的な活用を図り、児童生徒の学びの意欲の向上、ひいては学力の向上につなげてほしい。 ・成果指標の実績値だけであれば、進捗度は「A」であるが、全国平均比率が全体的に下回っているため、総合的にみると「B」となる。
1-2 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、スクールカウンセラーや各相談員といった機関と互いに情報を共有し、引き続き児童生徒の心の状況の把握に努め、適切な支援を行ってほしい。
1-3 健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動をしている生徒が少なくなっている。部活動の地域移行が進めば、さらに少なくなり、部活動をしている生徒と、部活動をしていない生徒の乖離は広がり、二極化する。 ・具体的な取組を実施しなければ、成果指標の数値は下がる一方である。これで良しとするのか、改善を目指すのか、危機感を持っているなら本気で対策を考えるべきである。 ・学校での体力や運動能力を引き出す取組を工夫していくことが求められる。
1-4 教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒用のデジタル教科書は、教科書に準じるものとして、全学校に配付すべきである。 ・小学校の統合を進めるにあたって、学習環境を整えることも重要だが、小学校は地域の学校という側面も合わせもつことから、十分意見を聞きながら進めてほしい。
1-5 地域に開かれた魅力ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターが昨年より増加したことは評価に値する。 ・公民館から、まちづくり組織への移行が進んでいる。アンケート結果を共有し、地区の方々と一緒に魅力あるまちづくりについて考えていくための具体的なアイデアを生み出す材料にしてほしい。 ・学校と地域が連携し合っていくことが重要である。
2-1 学習環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の収束により、自主学习団体数が増えている。また、一時期停滞していた活動が活発化してきている。 ・「進捗度のその理由等」は、設備を更新し、ニーズを把握して環境の向上を図れば、満足度は高まると読み取れる。利用者の満足度調査の意見等により改善を進め、利用しやすい施設づくりを目指していくという趣旨であるならば、「改善」についても記載したほうがいい。
2-2 学習機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成するためには、イベントでの来館者数を増やすことが重要である。各イベントが満席になるか、魅力的な内容を提供できているかが鍵になる。 ・「進捗度とその理由等」の欄に、指定管理者制度の導入により、民間事業者の知見を活かし、利便性向上や独自事業の検討も行われていることについて記載したほうがいい。

基本事業名	意見
2-3 学習活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・地区公民館において、趣向を凝らした催事が開催され、催事発表件数も増加してきている。今後も支援を引き続き実施し、学習活動の促進を図ってほしい。
4-1 文化財の保存と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も工夫を凝らした企画を実施し、図書館等ともタイアップするなど、さらに事業を活性化してほしい。 ・文化財の保存に係る取組についても、引き続き頑張ってもらいたい。
4-2 伝統文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント等で郷土芸能をみる機会が多いため、愛着が芽生えていると思われ、市民意識調査の結果も高い。

3 総括（施策）

施策名	意見
1 学校教育の充実	・子どもたちが学校を楽しむためには、教師が楽しくなければ、学校は面白くない。教師の人材不足を解消するためにも、教職員の多忙化解消に努め、魅力的な学校づくりをしていく必要がある。
2 生涯学習の推進	・市民の学習意欲が低いのであれば、全体の学習意欲を向上させる施策を検討すべきである。 ・「進捗度とその理由等」の欄に、生涯学習活動が地域におけるコミュニティや防災活動拠点の機能強化といった多様な分野で取り組んでいることについても記載したほうがいい。
4 地域の歴史・文化資源の継承	・五年祭など地域の祭りの継承は大事にすべきだと考えるが、若い世代の意識が低い。何か対策が必要だと考える。 ・各学校での郷土芸能の保存会等と連携した取組は、子どもたちが文化財や郷土芸能を学習するきっかけになるだろう。